

山の仲間

5月下旬、小屋開けの日。山の仲間や毎年小屋を訪れてくれる常連のお客さんが集まった。登ってくることさえためらう残雪の時期に、わざわざ自分の仕事を休み、ここ御嶽五の池小屋に集まってくれたのだ。そのうえ、小屋開け作業は大変な力作業だというのに、雨戸外し、雪につぶされないようにしていた補強の柱の撤去、畳敷き、雪かき、やらなきゃならないことは山ほどある。梅雨入りも間近だというのに、日本列島に寒波が入ってきたとラジオのアナウンサーの声。案の定、昼からは雷が鳴り、ひよ

うや雪が降った。そんな中、作業は続く…。

今になって言えるのだが、小屋番であるに僕は、うかつにも体調を崩して、あまり思うように体が動かなかった。

しかし、仲間はそれを感じてくれていたのか、本当にがんばってくれた。

翌日、真っ青な空に、今年最初の荷物がヘリコプターで運ばれてきた。食料や資材などを小屋に運び入れ、半年ぶりに小屋は息を吹き返した。みんな笑顔だ。これでやっと登山者を迎えることができる。

山小屋は自分だけでやっている訳ではない。みんなに支えられている。僕は営業開始の喜びと、山の仲間への感謝の気持ちでいっぱいであった。

(写真・文 市川典司)



五の池
小屋だより